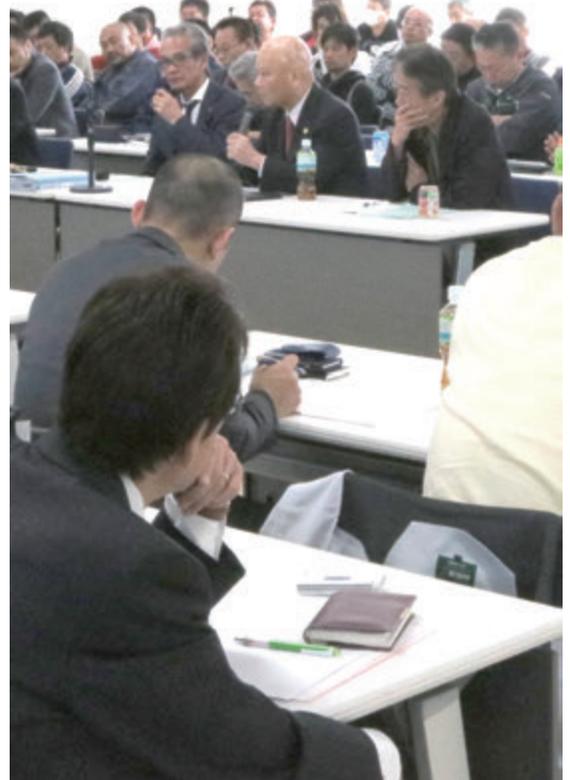


生コン関連団体第3回集団交渉

# 不誠実回答は認めない!

## 大阪広域協組は 約束を履行せよ



3月23日、協同会館アソシエで16春闘第3回集団交渉が行われた。

この日は有額回答日だったが大阪兵庫生コン経営者会は何の回答も用意していなかった。

労働側が「広域協組は雇用基金(1000円/㎡)を6月から全出荷量にすると約束したが、理事会決議しているのか」との問いに、経営者会代表は決議されていないと回答。この1000円基金は、広域協組設立時に労組との

約束である。経営者会も当事者であり広域協組への申し入れを確認した。

また、値戻し効果が徐々に浸透しているにもかかわらず、直系工場は経営者会に加入せず、1000円基金も支払わずに、値戻しの成果を独り占めしている。

労働側は「広域協組全社が経営者会に加盟し、同等の負担をすべきである」と厳しく指摘した。

## 必要コストを含め 価格の設定を!

22年前に広域協組を立ち上げたときに標準原価

表が打ち出された。当時の出荷数量を1工場当たり月間6000㎡と想定し、標準物で14330円、車輛は18台とした。しかし、今回は生コン価格を決めるときに標準原価を公表していない。今日の年間出荷量550万㎡からすると1工場当たり月間3600㎡の想定で、車輛は13台〜14台、人員は1.1人なので14人必要だ。労働側は「経営者会で、運賃や人件費も含めた生コン原価を計算することができず、なぜ出さないのか。出荷量から見てもどれくらいの価格設定が必要かも分か



るはず。それも含めて出荷量が少ないから経営が苦しいというのでは誠実な回答をしているとは言えない」として強く是正を求めた。

標準原価表

大阪広域協組設立準備委員会

原価項目	単価(円)	金額(千円)	構成比(%)	
原材料費	セメント	2,970	17,820	20.70
	砕石	2,430	14,580	16.97
	砂	2,440	14,620	17.301
	その他	200	1,200	1.40
	小計	8,040	48,220	56.12
工場経費(製造経費)	1,620	9,700	11.29	
輸送費	3,600	21,600	25.14	
一般管理費	770	4,600	5.35	
営業外費用	300	1,800	2.10	
合計	14,330	85,920	100.00	

① 種類 180-18-20  
② 標準数量 6,000㎡/月

94年の広域協組設立時に作成された標準原価表

関西生コン関連労働組合連合会 (生コン産労・全港湾大阪支部・近圧労組・大阪市西区川口2-4-28 建交労関西支部・U Aゼンセン・関生支部 TEL.06(6583)5546

# 16春闘共同ニュース

2016年  
3月28日号



労組が企業の体力を奪うという発想は間違い

### 賃金や運賃に格差が…

また、経営者会は各企業間で格差があるとしているが、格差を作ったのは経営側であることを指摘した。

協同組合に加入する企業は、未組織既組織問わず経営者会に入らなければならない。1979年の時は全社が「経営者会」に加盟していた。工組・協組の役員は経営者会の役員も兼務していた。なぜなら、経営者会を作って労使関係が安定しなければ業界が乱れるからである。

その時に、未組織を含めて賃金・労働条件や104日の年間休日が統一された。

その後、休日は統一されているが、賃金や運賃はバラバラである。

この状態では、協同組合の団結基盤が崩れることになる。団結基盤を強化するためには近圧協組がやっている、未組織既組織問わず経営者会に加入するというシステムが必要だ。それが

機能していけば、格差は発生しない。自らが格差を発生させながら、労使関係のある企業が体力を失っているのに、未組織企業に合わせるという発想は間違っている。

### 日々雇用が多数は異常！

いま、正規労働者が30%で非正規が70%という状態を異常と見るのか正常と見るのかが問われている。このことが労基局や職安から指摘され、日々雇用の印紙購入がストップさせられている現状がある。

### 代表折衝で解決を図る

このような不誠実な回答では、次回の最終交渉で解決するはずがない。解決しなければ行動しえないこと通告した。

経営者会は、最終日までに代表折衝で協議を重ね、解決を図るために努めると表明。代表折衝に期待して第3回集団交渉を終えた。



次回3月30日 最終回答

小委員会では問題解決しない  
回答次第で行動することを通告！